

美術館準備班だより

― 作品紹介 (十九) ―

小杉未醒

「鶏頭」

紙本、着色

落款から大正十年前後の制作と推定される、縦長の軸装による紙本の作品で、たらし込みや付け立てなど、用いられている個々の技法には日本画の特色がよく現われていながら、全体的に見ると、たいへん洋画的な雰囲気を感じ出しているという、不思議な感覚の作品です。

この作品のテーマとなった鶏頭という植物は、夏から秋にかけて開花する一年草で、熱帯アジアを原産とし、中国を経て日本に伝わりました。茎の先に

黄、橙、紅、赤などの色の小花が鶏の鶏冠状につくところからその名が付いたようですが、多くの園芸品種があり、専ら観賞用として栽培されています。血の色を思わせるような赤い花が密集している様子は、とくにデカダン(退廃的)な雰囲気を感じさせる大正期の日本画に格好のモチーフでした。

しかし、この未醒の作品の場合、鶏頭というモチーフを選びながらも、そのようなデカダンな趣はあまり見受けられません。この時期に鶏頭をテーマにして描いたということは、未醒自身もなんらかの時代の雰囲気を感じてはいたのでしょうが、そのような状況の中で、あえて大正デカダンスの絵画に特有の細密描写を行わず、逆に、ほかしを多用した描法で装飾性を持たせ、むしろ、健康的

ともいえる画面に仕上げたことは、未醒一流の反骨精神の現われかもしれません。

一見すると、楽々と簡単に描いたように思える作品ですが、縦長の画面の中心より下に鶏頭を描いて、その左下に落款を置き、上半分をそのまま空けた絶妙な余白の残し方や、赤い鶏頭の花と緑と黒の葉、そして、灰色の壺という色彩のバランス感覚などに日本画家としての未醒の優れた力量が十分に発揮されていますし、大正期の未醒の日本画によく見ることができ、薄く赤い線で輪郭をとる描法も効果を上げています。また、対象と真正面から向き合い、全体の實在感を確に表現した手法は、この作品に、どこか西洋の静物画を思わせる風格さえ与えているといってもいいのではないでしょうか。



シリーズ 日光市の行政改革 ⑥

前回に続き、行政改革の推進状況についてお知らせします。

▼体育協会の充実強化のため、事務局に専従職員を配置しました。生涯スポーツ活動の推進体制が整備され、「市民ひとり、いちスポーツ」の実践に向け一層の推進が図られます。

▼ゴミの減量化、再資源化のため、資源ゴミの分別収集がモデル地区を対象に十月から実施されます。詳細については、本誌五ページで紹介しています。

▼災害時の相互応援体制を確立する為、姉妹都市の八王子市、苫小牧市、本市に林間学校を設置して

いる葛飾区、足立区、また、栃木県内全市町村と相互応援協定を結びました。

なお、全庁的な取り組みが必要な項目については、職員によるプロジェクトチームを編成し、調査・検討を進めています。前回お知らせした「滞納者対策の強化」の他、次のようなプロジェクトチームがあります。

●下水道加入促進の強化 ●公共建設工事入札制度等の検討 ●補助金等の整理合理化 ●審議会等の適正運営の推進 ●申請書等の押印省略と様式簡素化の検討

『県民の日』サブテーマ募集

県民の日は、明治六年六月十五日に、当時の栃木県と宇都宮

県が合併し、ほぼ現在のような栃木県が誕生したのを記念して制定されました。

県民の日を中心として、県・市町村・各種団体が協力して、記念行事を行っています。

平成九年六月十四日(土)・十五日(日)に「地域のふれあいを求めて」をメインテーマにして当市を会場にした記念行事が開かれます。そこで、日光市をイメージした親しみ易く、分かり易い

サブテーマを募集します。

▼応募資格 市内に在住又は通勤通学する方

▼応募方法 はがきにサブテーマと、ご自分の住所、氏名、年齢、職業を記入(一人二点まで応募可)

▼宛先 〒三三二一四 日光市中鉢石町九九九 日光市役所総務課行政係(☎五四四一 一一一内線二二二)

▼応募期限 十月七日(月)必着
▼賞品 採用作品↓一点二万円相当、佳作↓三点五万円相当